

1 将来見通しと都市構造上の課題整理 (現行計画策定時からの傾向分析)

立地適正化計画の策定時(平成29年2月)に調査した将来人口の推計、都市機能の立地及びカバー率等の基礎データを現時点(令和2年度)と比較し、改めて都市構造上の課題を整理します。

(1) 人口の将来見通し 【参考資料2 P.2】

策定時> ○本市の人口は、平成22年(2010年)以降減少が続く見通し  
○平成52年(2040年)には人口の1/3が高齢者となる見通し

現推計> ○平成27年以降減少を続ける見通しに変化なし  
○令和22年(2040年)に人口の1/3が高齢者となる見通しに変化なし  
・令和22年(2040年)時点の人口は、168,492人と推計され、策定時(=164,433人)よりも増加している。

(2) 地区別人口の将来見通し 【参考資料2 P.3~5】

策定時> ○市全域で人口減少が進む  
・平成52年の人口増減をみると、市街化区域、市街化調整区域ともに人口減少がみられる。  
・特に豊川駅、牛久保駅、諏訪町駅周辺や国府駅、西小坂井駅、小田淵駅、愛知御津駅周辺の人口減少が大きくなっている。

現推計> ○市全体で人口減少が進む傾向に変化なし  
・人口減少が大きく進む地域については、国府駅北東部の一部で人口増加が見込まれることを除いて変化なし。

(3) 地区別高齢者人口の将来見通し 【参考資料2 P.6~9】

策定時> ○高齢者人口密度が上昇し、市街化調整区域では高齢者割合が40%を超える  
・市街化区域では、ほとんどの地域で高齢者人口密度の上昇がみられる。  
・市街化区域、市街化調整区域ともに高齢者割合が上昇し、市街化区域では、30%から40%となる地域が多く、市街化調整区域では、高齢者割合が40%以上となる地域もみられる。

現推計> ○高齢者人口密度が上昇し、調整区域で高齢者割合40%を超える傾向に変化なし  
・令和22年度(2040年)時点の高い高齢者人口密度は、令和52年(2070年)においても継続して高いまま維持される見込みである。

(4) 地区別年少人口の将来見通し 【参考資料2 P.10~13】

策定時> ○年少人口密度は低下し、市街地でも、年少人口割合は10~15%が主体を占める  
・市街化区域では、ほとんどの地域で年少人口密度の低下がみられ、豊川市役所周辺や諏訪町駅南側等において年少人口密度の低下が大きくなっている。  
・市街化区域、市街化調整区域ともに今後、年少人口割合の低下が進む。

現推計> ○年少人口密度が低下し、市街化区域内で、年少人口割合は10~15%が主体を占める傾向に変化なし  
・豊川市役所周辺等の年少人口密度が大きく低下する傾向にある地域に変化はないが、高い密度を維持する地域も見受けられる。

(5) 地区別生産年齢人口の将来見通し 【参考資料2 P.14~17】

策定時> ○生産年齢人口密度は低下し、市街化調整区域では、生産年齢人口割合が50%未満の場合もみられる  
・市街化区域のほとんどの地域で生産年齢人口密度の低下がみられる。  
・生産年齢人口割合をみると、市街化区域では、55~60%となる地域が多く、市街化調整区域では、50%未満の地域もみられる。

現推計> ○生産年齢人口密度が低下し、市街化調整区域内では、生産年齢人口割合が50%未満の場合がみられる傾向に変化なし  
・生産年齢人口密度は、市街化区域、市街化調整区域ともに、50%未満の地域が多い傾向にある。

(6) 将来都市構造の見通しからみた都市構造の評価 【参考資料2 P.18~24】

策定時> ○人口減少により都市機能が維持できなくなり、生活利便性が低下する懸念がある  
・平成52年の将来推計をみると、市街化区域では、都市機能が維持できなくなる程の人口密度の低下が生じる見通しではないものの、多くの地区で人口密度が低下し、人口減少が進む見通しとなっている。また、市街化調整区域では、都市機能の人口カバー率が大きく低下し、住民の生活利便性の確保が課題となる。

現推計> ○令和22年(平成52年)において、市街化区域の多くの地区で人口密度が低下し、人口減少が進む見通しであり、市街化調整区域では、都市機能の人口カバー率が大きく低下し、生活利便性の確保が課題となる見通しに変化はない

2 都市構造の将来見通しによる都市づくりの課題

立地適正化計画の策定時と現時点での基礎データを比較し、都市構造の将来見通しを分析・評価した結果、課題の傾向について大きな変化がないため、都市づくりの課題は、現行計画と同様、以下のとおりとします。

【都市構造の将来見通しによる都市づくりの課題】

- ◆ 人口減少が続くことによる市内全域の人口密度の低下
- ◆ 高齢者人口密度の上昇と生産年齢人口密度の低下
- ◆ 都市機能の人口カバー率の低下による住民の生活利便性の低下

都市づくりの課題の傾向には、大きな変化がみられないため、本計画の基本的事項(まちづくりの方針、目指すべき都市の骨格構造・誘導方針)は、現行計画を継承していく方向で考えています。

## まちづくりの方針

豊かな歴史・文化と自然環境を次世代に継承し、安全で快適で活気あるにぎやかなまちを実現するため、都市の将来像とまちづくりの方針を以下のとおり決めました。

都市の将来像

歴史・文化が息づく自然豊かで快適な持続発展都市 とよかわ

まちづくりの方針

地域の特性に応じた都市機能が配置されたまち

- 必要な都市機能の効率的な確保
- 主要な鉄道駅周辺への都市機能の配置
- 多世代の交流を促進する都市機能の配置

安全・安心で住み続けられるコンパクトなまち

- 生活利便性の高い拠点周辺への人口の集積
- ゆとりある居住地の確保
- 自然災害に対し安全な地域への居住の誘導

誰もが都市機能にアクセスできるまち

- 鉄道4路線の高い利便性の維持
- メリハリのある効率的な公共交通体系の形成
- 拠点間を連絡する幹線道路ネットワークの形成
- 生活道路の安全と快適性の確保

豊川らしさの発揮による活力とにぎわいのあるまち

- 歴史・文化資源等を活用した交流人口の拡大による地域経済の活性化
- 市民等が利用する商業機能の拡充
- 通勤しやすい居住地の確保
- 広域交通を処理する道路ネットワークの確保

## 目指すべき都市の骨格構造

主要な鉄道駅周辺の市街地を拠点として位置づけ、これら拠点を道路や公共交通などの交通ネットワークにより連絡する骨格構造を形成します。



## 誘導方針

各まちづくりの方針に対し、都市機能の適正配置や人口密度の維持等に向けた誘導方針を示します。

### ●各地域の既存機能の維持・強化、不足する機能の誘導

- 中心拠点と全ての地域拠点に都市機能誘導区域を設定し、各拠点に都市機能施設を適正に誘導する。

### ●利便性の高い地域へのゆるやかな誘導

- 拠点の生活利便性を向上させることで、時間をかけゆるやかにコンパクトな都市構造を形成する。
- 市街化調整区域の居住地においても生活の利便性が大きく低下することがないように努める。

### ●行政、交通事業者、市民・地域・利用者の協働による効率的な移動手手段の確保

- まちづくりと一体となったまちづくりを関係者と連携して推進する。
- 各関係者が協働で責任を持って公共交通を支える。

### ●都市機能と居住地の適正配置による産業振興

- 歴史・文化資源等を保全・活用したまちのにぎわいを維持・拡大する。
- 事業所や工場が集積する地域では産業振興を進める。

利便性が高い地域への誘導イメージ

